

## 島根大学教育学部「未来教師塾」における教員採用試験対策の現状

The current circumstances of measuring against school teacher recruitment examination in Shimane university faculty of education "Mirai Kyoushi Juku".

佐竹 易子\*                      原 丈貴\*\*  
Yasuko SATAKE                      Taketaka HARA

### 要 旨

2010年に新設された島根大学教育学部就職支援室では、教員採用試験対策を中心にセミナーの開催やサポート、相談対応を行っている。その中でも重点を置いている島根大学教育学部「未来教師塾」（以下、「未来教師塾」）は2014年に開塾し、より積極的な教員採用試験対策を行うために活動を継続してきた。今後のさらなる教員採用試験対策を考えるにあたり、学生の「未来教師塾」への参加の有無や参加時間が、教員採用試験の合格率に影響しているのかを調査した。また、「未来教師塾」へ参加した学生に対する参加満足度調査と就職支援室における就職相談満足度調査も行った。その結果「未来教師塾」への参加と時間が教員採用試験の合格率に寄与していることが示され、参加者における参加満足度も高かった。あわせて就職支援室での相談サポートが学生の向上心を高めるきっかけとなっていることも示唆された。

〔キーワード〕 島根大学教育学部未来教師塾 教員採用試験対策 満足度調査

### 1. はじめに

島根大学教育学部（以下、本学部）は教員養成に特化した学部であり、教職を希望する学生が多い。そのため本学部には、全学部対応の大学教育センターキャリア担当とは別に、島根大学教育学部就職支援室（以下、就職支援室）が存在する。2014年には「未来教師塾」を開塾し、さらに積極的な教員採用試験対策を行うために活動を継続してきた。「未来教師塾」とは、学部教員数名と学校現場から着任した教員数名から構成され、教員採用試験対策を強化するセミナーの開催や、学生への個別指導を行っている。「未来教師塾」の開塾より9年間活動を実施してきたが、今後のさらなる対策を考えるにあたり、「未来教師塾」の試験対策や育成活動が実際に学生の教員採用試験対策の向上に効果があるか否かを第一の調査として実施した。さらに、「未来教師塾」に対する学生の満足度を第二の調査として実施し、「未来教師塾」自体の充実度や今後の改善点を明らかにした。

\*島根大学教育学部教育支援センター（就職支援室専任，未来教師塾 師範）

\*\*島根大学教育学部保健体育科教育専攻（就職支援室センター長，未来教師塾 塾長）

「未来教師塾」では毎年、3年生の後半から教員採用試験対策を行っている。あわせてこの時期に差し掛かり始める頃から進路に悩む学生が多いのも実状である。就職支援室では「未来教師塾」の教員採用試験対策サポートや情報提供のほかに就職相談対応も担っており、教職を目指すことに不安や悩みを抱えているという相談が寄せられる。その相談内容は様々で、例えば教員としての自己能力に不安を感じており、適職であるか否かの判断ができないという本人の自信のなさや、あわせて本人よりも家族が教職を望んでいるという周囲からの期待に負担を抱えているケースもある。また、結婚や将来設計を考え就職する県の選択に迷っている学生も多い。進学希望者においては、大学院を修了したのち着任できる制度を取り入れている県を考慮した上で受験するか否かを葛藤しているケースもある。このような状況が毎年続く中、本学部における教員養成の施策として「未来教師塾」と両輪を成す就職支援室の今後のさらなる改善を考えるにあたり、就職相談対応を利用した学生がどの程度満足し、今後の進路に対する捉え方に好影響を与えているか否かを第三の調査として実施した。

本稿では続く2章において、実施した調査の方法について述べ、3章では調査結果を報告する。4章では調査結果に基づいて考察を展開し、5章で総括を述べる。

## 2. 調査方法

本調査は直近5年間の「未来教師塾」への「参加と教員採用試験合格率との関係の調査」、  
「未来教師塾」に参加した学生に対する「参加満足度調査」、就職支援室の相談対応による満足度を把握するために実施した「就職相談満足度調査」の3つの調査から構成される。3つの調査方法について以下に概要を説明する。

### (1) 「未来教師塾」への参加状況と教員採用試験の合格実績

「未来教師塾」には9年間の活動実績があるが、「未来教師塾」への参加人数が増してきた最近の動向を見るために直近5年間の実績を基に以下2つの分析を行った。

#### ① 「未来教師塾」への参加状況と教員採用試験の合格率の比較

「未来教師塾」に参加した学生と参加していない学生の教員採用試験の合格率を分析し、「未来教師塾」への参加が教員採用試験の合格率へ寄与しているかどうかを検討した。詳細として「未来教師塾」へ1回以上参加した学生を「参加あり」とした。なお、参加認定の最小時間単位は30分としているため、30分以上参加した学生を参加とし、それ以外の学生を不参加とした。

#### ② 「未来教師塾」への参加時間と教員採用試験の合否の比較

「未来教師塾」に参加した学生を対象に、教員採用試験の合否と「未来教師塾」への参加時間の比較を行った。小学校および中・高の校種別に分析し、あわせて対象全体でも差異の有無を確認し、さらに、年度毎の比較も行った。

### (2) 「未来教師塾」参加満足度調査

#### 1) 調査対象者

未来教師塾への参加者4年生82名を対象とし、そのうち51名（男性21名、女性27名、性別無回答3名）から回答を得た。

2) 調査期間

2022年9月1日から2022年9月30日の期間で実施した。

3) 調査手続き

Moodleにて調査協力を促し、オンライン調査で回答を得た。

4) 調査内容

フェイスシートには性別の選択のみで、以下に示す13項目の質問を作成し、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の5件法で回答を得た。

「未来教師塾」参加満足度調査の質問内容 (13項目)

1. セミナー、個別指導への申し込みはしやすかった
2. セミナー、個別指導への案内時期は適切であった
3. セミナー、個別指導への内容が明確であった
4. セミナー、個別指導への申込から指導を受けるまでの時間や流れが適切であった
5. 教師力が身についた
6. 新しい自分が発見できた
7. 教職志向がより高まった
8. 試験に役立った
9. 指導内容がわかりやすかった
10. 希望する回数の指導を受けることができた
11. 1回あたりの指導時間は適切であった
12. 気兼ねなく話せたり質問などもしやすい雰囲気であった
13. 未来教師塾全体を通して満足のいく内容であった

(3) 就職相談満足度調査

1) 調査対象者

就職支援室で相談対応をした1年生から4年生16名（1年生男性1名女性1名、3年生男性2名女性6名、4年生男性1名女性5名）を対象とし、16名全員から回答を得た。

2) 調査期間

2022年1月から2022年12月の期間で実施した。

3) 調査手続き

就職支援室にて相談対応後、アンケート用紙を渡してその場で回収した。

4) 調査内容

フェイスシートには性別の選択のみで、1項目の質問「就職相談対応についてどのくらい満足していますか」に対し、「とても満足」、「やや満足」、「どちらとも言えない」、「やや不満」、「とても不満」の5件法で回答を求め、質問内容の下段に自由記述欄を設けた。

### 3. 結果

#### (1) 「未来教師塾」への参加状況と教員採用試験の合格実績

##### 「未来教師塾」への参加状況と教員採用試験の合格率の比較

表1は、小学校教員採用試験受験者、中・高教員採用試験受験者、および受験者全員を対象として、「未来教師塾」への参加の有無別に合格率を示したものである。2018年度卒業生から2022年度卒業生までの年度ごとに合格率を算出した。小学校教員採用試験受験者、中・高教員採用試験受験者をみると、「参加あり」グループにおいて合格率が高くなっていることが明らかとなった。また、対象全体でみても、全ての年度において「参加あり」グループの方が合格率が高くなっていることが示された。

表1 「未来教師塾」参加の有無と教員採用試験合格率

		2018年度卒	2019年度卒	2020年度卒	2021年度卒	2022年度卒	平均
小学校	参加あり	55.8% (24/43)	70.0% (28/40)	68.4% (26/38)	70.0% (14/20)	91.9% (34/37)	71.2%
	参加なし	0.0% (0/1)	0.0% (0/1)	33.3% (1/3)	50.0% (3/6)	25.0% (1/4)	21.7%
中・高	参加あり	32.6% (14/43)	51.5% (17/33)	53.1% (17/32)	37.1% (13/35)	57.8% (22/38)	46.4%
	参加なし	5.6% (1/18)	9.1% (1/11)	33.3% (1/3)	10.0% (1/10)	10.0% (1/10)	13.6%
全体	参加あり	44.1% (45/102)	63.3% (50/79)	62.0% (44/71)	51.7% (31/60)	73.4% (58/79)	58.9%
	参加なし	8.7% (2/23)	8.3% (1/12)	42.8% (3/7)	25.0% (4/16)	13.3% (2/15)	19.6%

(全体には、特別支援学校、幼稚園含む)

#### (2) 「未来教師塾」への参加時間と教員採用試験の合否の比較

図1は、直近5年間の教員採用試験を対象として、試験の結果別に「未来教師塾」への参加時間を示したものである。左の小学校受験者および中央の中・高受験者の両群において、合格者の方が不合格者よりも「未来教師塾」への参加時間が有意に長いことが示された。また、対象全体でみても同様の結果であった。

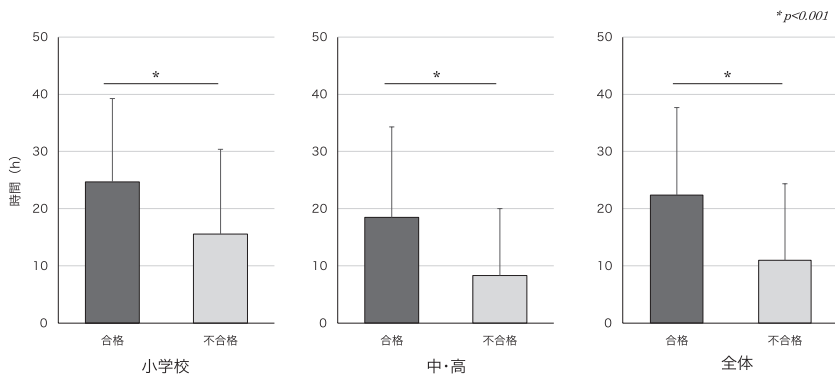


図1 教員採用試験の合格者と不合格者の参加時間

図2から図4はそれぞれ小学校教員採用試験受験者，中・高教員採用試験受験者，および受験者全員を対象として，2018年度卒から2022年度卒までの各年度別に教員採用試験の合格者と不合格者の参加時間を比較したものである。

小学校教員採用試験受験者は，2018年度および2022年度において，合格者の参加時間が不合格者の参加時間よりも有意に長いことが示された（図2）。中・高教員採用試験受験者では，2019年度，2021年度，2022年度において合格者の参加時間が不合格者の参加時間よりも有意に長く，2018年度については，合格者の参加時間が長くなる傾向がみられた（図3）。対象全体でみると，2020年度以外の年度において，合格者の参加時間が不合格者の参加時間よりも有意に長いことが示された（図4）。

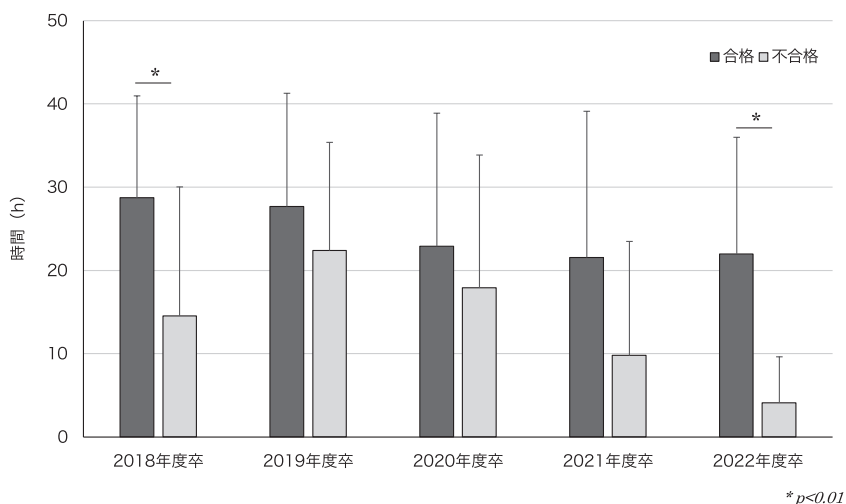


図2 各年度における教員採用試験の合格者と不合格者の参加時間（小学校）

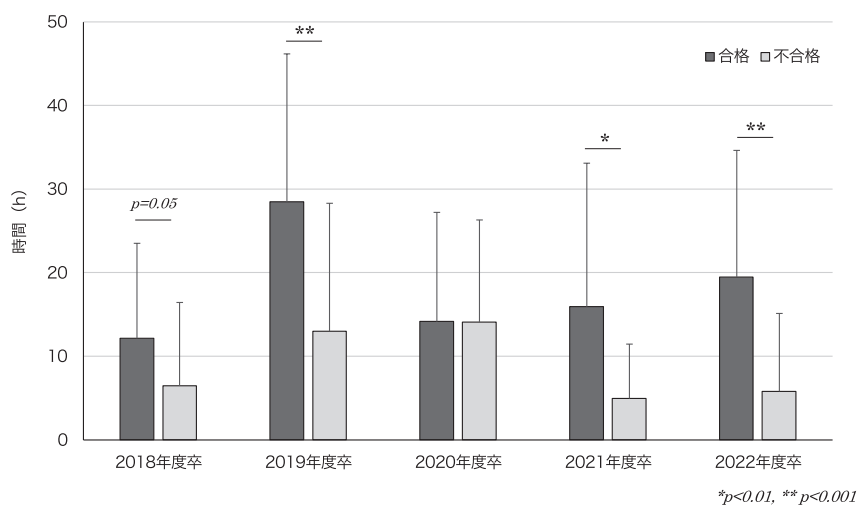


図3 各年度における教員採用試験の合格者と不合格者の参加時間（中・高）

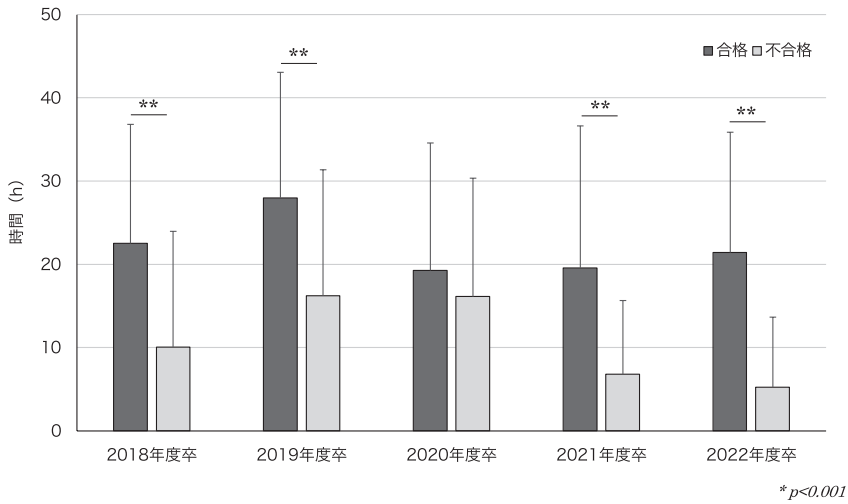


図4 各年度における教員採用試験の合格者と不合格者の参加時間 (全体)

### (3) 「未来教師塾」参加満足度調査

質問1「セミナー、個別指導への申し込みはしやすかった」、質問10「希望する回数の指導を受けることができた」に対して「あてはまる」と回答した割合は60%程度となっており、満足度が最も低い結果であった。それに対し、質問11「1回あたりの指導時間は適切であった」に対しては、80%を超えており、満足度が最も高い結果であった (図5)。

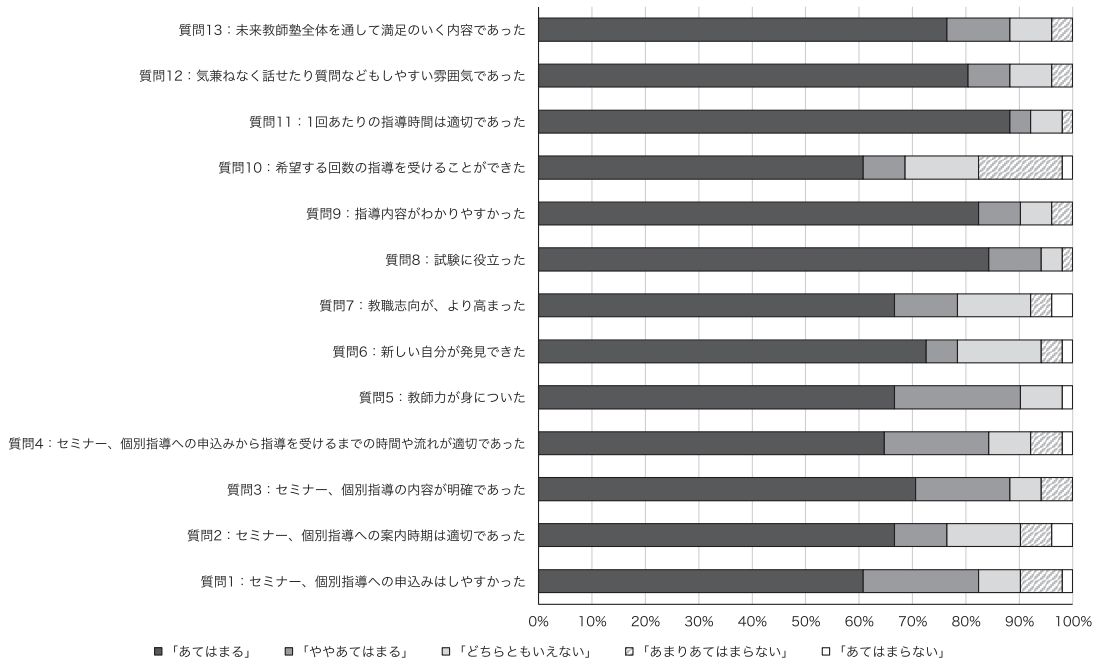


図5 「未来教師塾」参加満足度調査

#### (4) 就職相談満足度調査

就職相談後の満足度（「とても満足」「やや満足」「どちらとも言えない」「やや不満」「とても不満」の5件法）については、全員が「とても満足」という回答であった。自由記述内容には長文の回答もあったため、一部抜粋した内容を次に示す。

##### 相談者からの自由記述内容（一部抜粋）

- ・「進路についての不安が減少し、話している間に自分の考えがまとまってきた」
- ・「過去の事例や、先輩方のこれまでの活動を聞いて参考にできる内容が多かった」
- ・「自分だけでは考えが及ばなかった意見に興味を持った」
- ・「適職がわからず悩んでいたが、まずはできることから挑戦してみる気になった」
- ・「教員採用試験に不合格となり、やる気を失っていたが講師として前向きな気持ちが持てるようになった」
- ・「私のように悩む生徒にも親身になって相談にのってあげられるような頼れる教員になろうと思った」

#### 4. 考察

##### (1) 「未来教師塾」への参加状況と教員採用試験の合格率の比較

「未来教師塾」へ参加したグループは、参加していないグループと比べて合格率が高いこと、また合格者の方が不合格者に比べて小、中・高ともに「未来教師塾」への参加時間が有意に長いことが明らかとなった。

合格率については、教員採用試験実施年度の志願倍率も影響するため、表1の数値を他年度間で比較する場合には注意が必要である。実際に、島根県の教員採用試験（小学校）の直近5年間の志願倍率をみると、2022年度（令和4年度）実施の試験では1.6倍、2021年度（令和3年度）では1.7倍、2020年度（令和2年度）2.2倍、2019年度（令和元年度）2.4倍、2018年度（平成30年度）3.3倍となっており、近年低下傾向にある。従って、経年変化から「未来教師塾」の取組内容を評価することは難しいが、年度ごとにみると何れの年度および校種においても、「未来教師塾」へ参加したグループの方が合格率は高くなっていることから、教員採用試験に向けた取組として有機的に機能していることが推察される。

参加時間の比較を行った図2、3、4では、2020年度は何れにおいても参加時間に有意な差が認められなかったが、その要因には、前年度の2019年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられる。コロナ禍での感染防止対策として、大学の授業が原則オンラインで実施されることとなり、「未来教師塾」における学生指導もオンラインが中心に実施せざるを得ない状況であった。そのため、参加する人数や指導時間が限られていたことが、2020年度の結果に影響していると考えられる。

近年においても、中・高採用者数は小学校採用者数に比べて少なく、全国的にも受験倍率が高い<sup>1)</sup>。しかし、表1と図1の結果からもわかるように、中・高受験者でも「参加あり」グルー

プの方が合格率が高く、さらに、合格者の方が不合格者よりも参加時間が有意に長くなっている。中・高受験者は専門性が高く、高倍率の受験枠でありながらもこのような結果として出ているのは、「未来教師塾」で繰り返される個別指導やコミュニケーションの中から、自分一人や学生達だけでは知り得ない考え方、ものの見方などを習得しているからではないだろうか。学校現場での経験が豊富な実務家教員から指導を受ける中で、緊張する場面が繰り返され、そこで身につく力は自信にもつながることであろう。この過程において自分の希望を実現するためには、多くの努力が必要であることを少なからず学生も実感しており、その結果として、中・高受験者における合格者の参加時間が長くなっているのではないかと推測する。

## (2) 「未来教師塾」参加満足度調査

「未来教師塾」へ参加した学生を対象に満足度調査を実施したところ、質問1「セミナー、個別指導への申し込みはしやすかった」および質問10「希望する回数の指導を受けることができた」に対して、「あてはまる」の回答が60%程度となっていた。要因として、ウイルス感染予防対策として多人数での指導を避け、各教員共に十分な指導時間を確保できなかったことも関連していると考えられる。

学生が適切な学習方略をもって就職活動に臨むには、環境整備が大切である。環境とは、大辞林第四版<sup>2)</sup>によると「意識や行動の面でそれらと何らかの相互作用を及ぼし合うもの」とされている。環境整備とは、例えば志望する自治体の試験の傾向を学生が早期に把握できる情報施設、「教員になる」という目標に向けて行動する際に、その行動をサポートする自習室のような物理的な環境整備が挙げられる。あわせて、試験に向けての攻略を含め、教職を目指す上で抱くことになる全般的な「悩み」に「個別に相談できる」人的な環境も挙げられるだろう。大学は「学生が教員採用試験に臨むための方略と実際の学習、そして環境は相互に結びついている」ということを認識したうえで、学生の目標の達成を支援することが求められる<sup>3)</sup>。これらの環境の実現には、教職員が「学生にとって最適な環境づくり」が必要であるとの共通理解をもとに、連携することが重要であるといえるだろう。本学部においては、就職や進路を考えるにあたりこの「未来教師塾」という「学生にとって最適な環境」を整備していくことで、学生の向上心を高め、あわせて教職を志望する学生の合格率上昇へと寄与できると考える。

## (3) 就職相談満足度調査

学生が希望する相談利用回数は1名につき平均2回（1回約60分）であった。回答者からの自由記述コメントを総括すると、自分だけでは解決や整理ができない悩み事も就職支援室の教員と話すことで、夢や課題を再確認すると同時に新たな側面にも気づき、自己理解とともに積極的に臨んでいこうとする姿勢に切り替えられていたことがうかがえた。また、その後、相談者からの相談内容の進展状況報告があり、多くの学生が相談事項を解決できていた。今回の「就職相談満足度調査」の回答数は、1年間で就職支援室に相談枠として予約してきた学生に限定した集計数である。実際にはセミナー参加後の流れで、そのまま相談をもちかけてくる学生や、添削指導や情報収集のためにコンタクトを取った流れで悩みを打ち明ける学生も多い。



そのため、1年間の相談件数の総数は、今回の調査回答数の数倍に及ぶ。また、アドバイスを求めてくる学生数は年々増加傾向にあり、相談内容も時流により徐々に変化してきていることから、特に、学校現場における専門的な内容の相談には、「未来教師塾」担当教員と連携を組んで対応をしている。

昨今の教員志願者減少の要因として、教員の働き方改革がなかなか進まない現状や、教員に対して目に見える教育成果を期待する社会の風潮があるのではないだろうか。「未来教師塾」の担当教員は、各県の教育委員会から着任した教員や、公立の小中学校から着任した教員などで構成されているため、着任後の心配ごとや不安などにも幅広く応じることが可能である。また、実際に学校現場で勤務した教員の話を通じて、教職をより身近に感じとれることが可能となり、さらに教職への興味を高めるきっかけとつながっていく。このように「学生にとって最適な環境づくり」のひとつがここでも実現されているといえる。

#### (4) 総合考察

「未来教師塾」への参加が教員採用試験の合格率に寄与していることを鑑みて、一人でも多くの学生が「未来教師塾」へ参加できる機会を増やしていく必要がある。さらに、年度ごとに採用試験合格者と不合格者の参加時間を比較した図2から図4で示されているとおり、突発的に発生した新型コロナウイルス感染予防対策によって参加時間が減少してしまったことから、このような不測の事態が生じても学生が参加しやすい体制がとれるよう、常日頃から準備しておくことが重要である。

また、進路に不安を抱えている学生が、就職支援室で行っている相談対応によってモチベーションが改善されたことから、今まで相談に来づらかった学生にも利用しやすい環境作りに配慮していくと同時に、日常から学生と積極的なコミュニケーションをとるなど、就職支援室から学生にアプローチしていく取組にも力を入れていきたいと考えている。見館ら<sup>4)</sup>は、学生にとって「教員とのコミュニケーション」は「学習意欲」を高め、さらに「大学生活の満足度」に影響を与え、ひいては「将来のキャリア」にも影響を与えると報告している。本学部においても多くの学部教員とのコミュニケーションと、「未来教師塾」への積極的な参加によって多くの学生が向上心をもって進路に向かっていくことができるのではないかと期待している。あわせて、就職支援室で相談できる環境の構築、加えて「未来教師塾」で学べる環境の構築を継続的に実施していくことで、本学部生の教員採用試験の合格率向上へ貢献できると考える。

#### 5. おわりに

本学部の就職支援の一環として取り組んでいる「未来教師塾」の成果について、参加した学生の教員採用試験の結果や満足度調査をもとに検討を行った。その結果、「未来教師塾」への参加は教員採用試験の合格率に寄与していることが示唆され、参加者の満足度も高いことが示された。しかし、「未来教師塾」の取組だけで、表1に示す合格率の結果が得られているわけではなく、「未来教師塾」に参加している時間以外においても、学生自身が自分の夢を実現させるために多くの努力を積んでいる結果が、合格率の向上につながっていると考えられる。従っ

て、就職支援室や「未来教師塾」だけが就職サポートの役割を担うのではなく、学部全体で学生の就職をサポートできる環境を整えることも重要である。それに向けて、「未来教師塾」の取組をより良いものに改善しながら、あわせて学部全体で「教員就職率の向上」という目標意識を共有して、学部教員それぞれの強みを活かせる就職サポート体制の構築を進めていきたい。

#### 参考文献

- 1) 文部科学省, 2021年度教員採用試験最終選考実施状況, 2022.
- 2) 松村 明 編, 大辞林第四版, 三省堂, 2019.
- 3) 四辻伸吾, 中島悠介, 岩井晃子, 教職志望学生の教員採用試験への方略に影響を与える要因の検討, 大阪大谷大学紀要, 56, 63-75, 2022.
- 4) 見館好隆, 永井正洋, 北澤 武, 上野 淳, 大学生の学習意欲, 大学生生活の満足度を規定する要因について, 日本教育工学会論文誌, 32 (2), 189-196, 2008.